

第3章 地区別の課題分析

- 人口・世帯数や地場産業など地区ごとの特性について現状分析を行うとともに、3つの地区の課題を抽出・分析し、ポイントを整理しました。
- 地区については、津波により甚大な被害が想定されている沿岸部を対象として、地域の特性（産業や拠点の配置等）を踏まえた地区区分の考え方（表 3.1）に基づき、図 3.1 の3つの地区区分を設定しました。
- 地区別の課題について、30 頁以降に整理しています。

表 3.1 地区区分の考え方

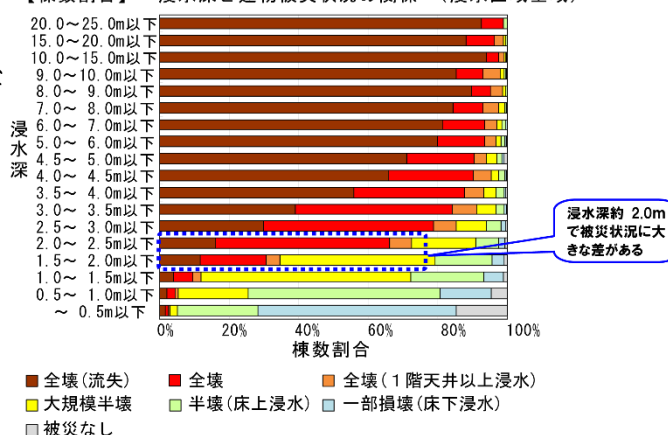
地区名	主な小地域	備考
南部地区	山内、気佐藤、北道、南道、芝、東吉田、埴田	<ul style="list-style-type: none"> ・南部駅や役場庁舎が存在する町の中心市街地 ・地区の大半が低地部 ・津波浸水による甚大な被害が懸念 ・都市計画区域を含む
堺地区	堺	<ul style="list-style-type: none"> ・一本松漁港等を中心とした漁村集落 ・低地部に居住しており、後背地には高台が存在 ・津波浸水による甚大な被害が懸念 ・都市計画区域を含む
岩代地区	西岩代、東岩代	<ul style="list-style-type: none"> ・岩代駅を中心として、低地部に農地が広がり、岩代漁港を有する農村漁村集落 ・低地部の後背地には高台が存在するが、土砂災害による被害が懸念 ・都市計画区域を含まない

【津波浸水深と家屋倒壊の関係】

東日本大震災においては、浸水深 2m 以上の区域においては、全壊となる家屋が多くなっていました。

津波浸水深が 2m 以上となる地域では多くの家屋が全壊することが想定されますが、2m 未満の区域では、全壊する家屋が点在する「被災混在地区」となる可能性があります。広い範囲で面的な被害を受けた地区と異なり、防災集団移転促進事業や被災市街地復興土地区画整理事業などの都市基盤の抜本的な対策を行う面的整備は困難となります。

【棟数割合】 浸水深と建物被災状況の関係（浸水区域全域）



（出典：東日本大震災による被災現況調査結果について（第1次報告））

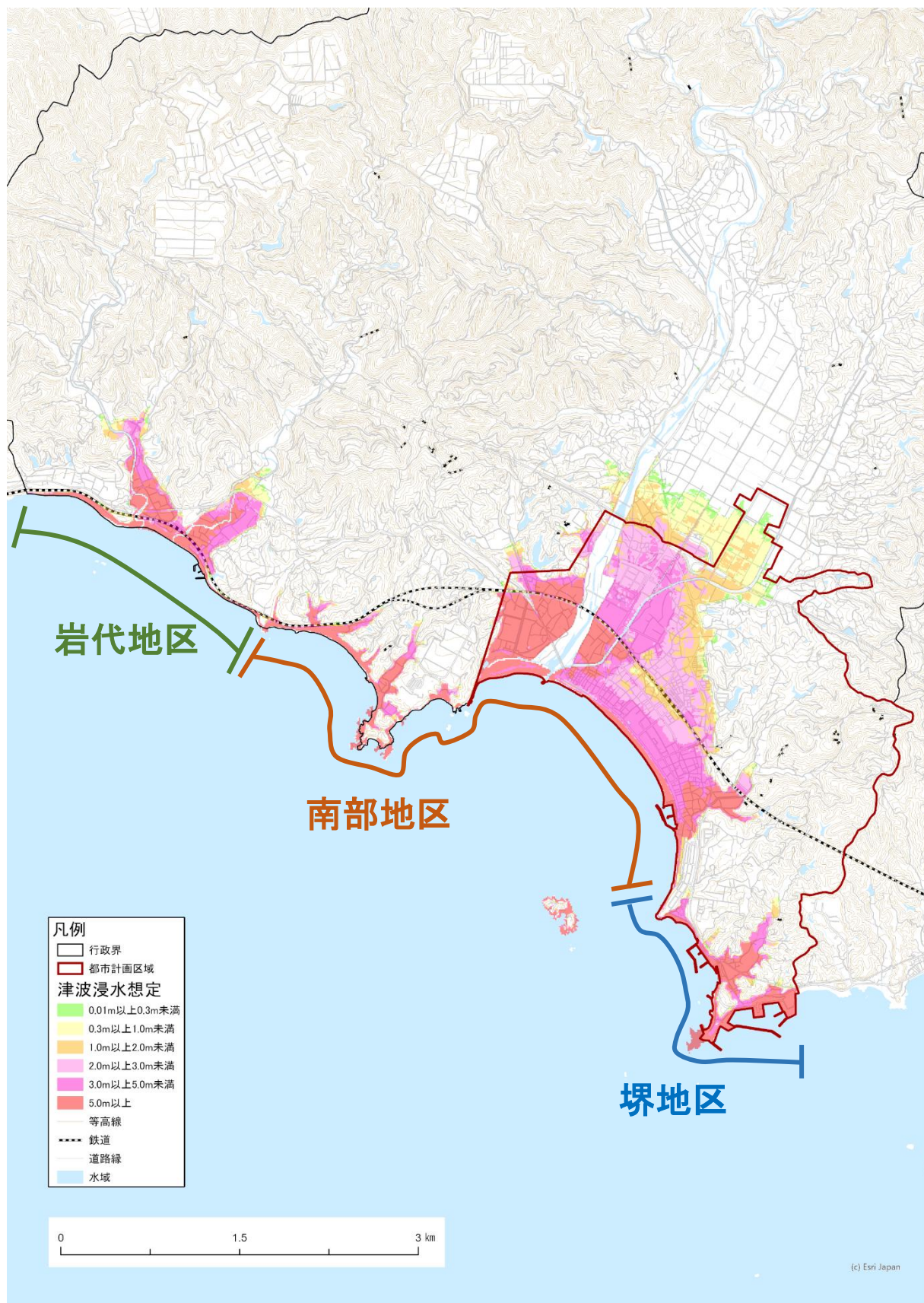
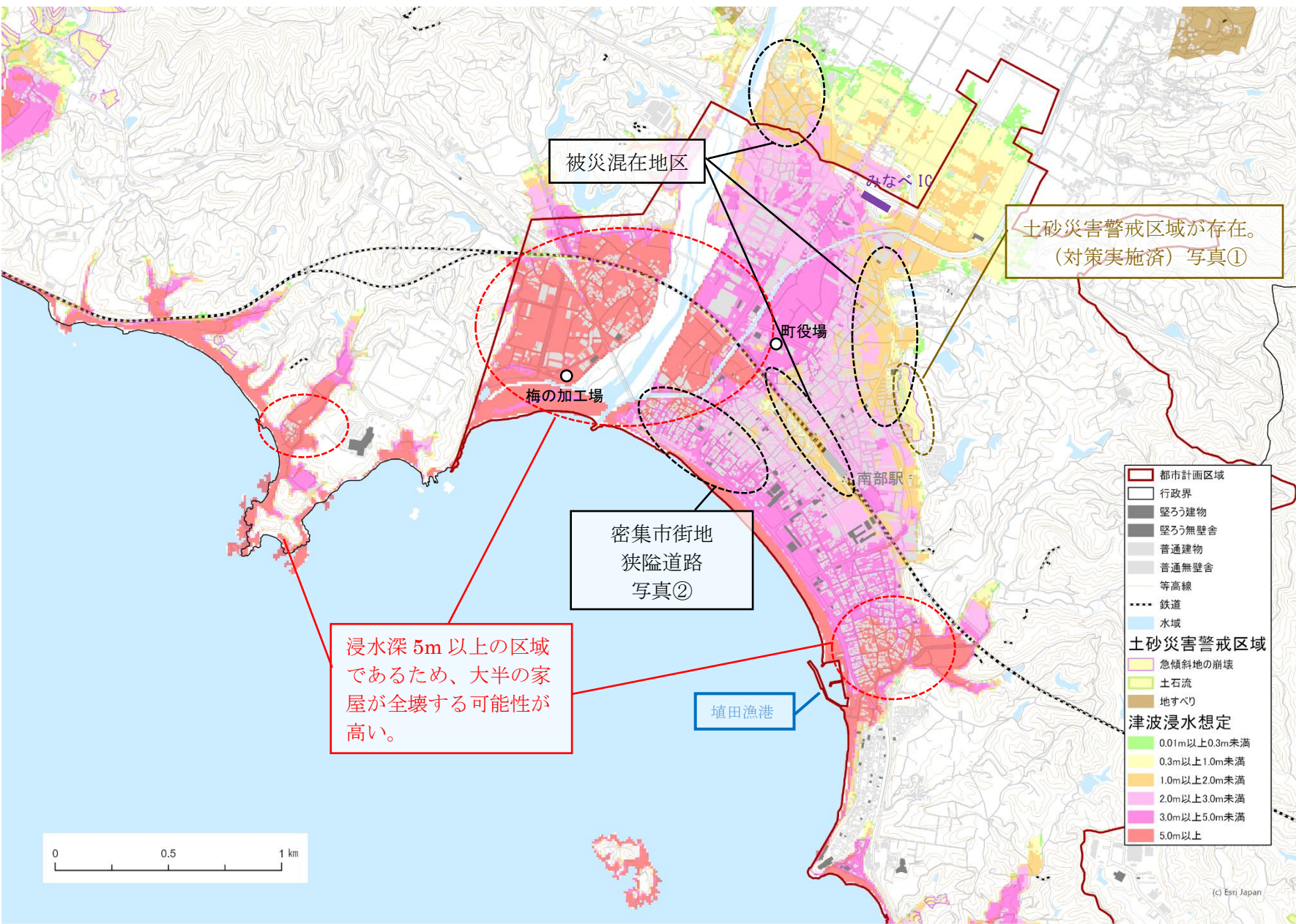


図 3.1 地区区分と都市計画区域・津波深浸水想定の関係

地区名：南部地区

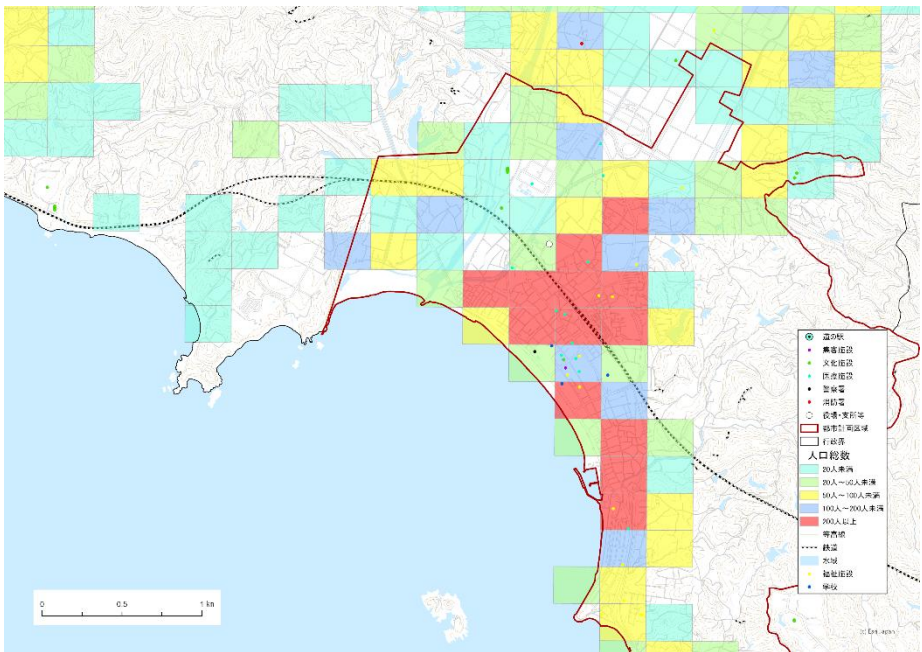
【課題図】災害リスクと建物の立地



【被害の特徴】

- ・地区内の沿岸部市街地で最大 5.0m 以上の津波浸水が想定されている。
- ・町内の主要産業である梅の加工場においても、浸水被害が予想される。
- ・町役場周辺においても、浸水深 3.0m 以上、5.0m 未満の浸水が見られる。
- ・交通における重要な拠点である南部駅周辺、みなべ IC も浸水が想定され、加えて、JR 紀勢線の線路にも被害が想定される。
- ・沿岸部市街地においては、建物構造（コンクリート造・木造、一戸建て・集合住宅）が様々であり、各家屋の被災状況が異なることが予想される。
- ・国道 42 号線と堤防が隣接しており、道路利用者への被害が想定される。（写真③）
- ・町内で最も人口が集中する地域であり、人的被害や建物被害が大きくなる事が予想される。

【人口分布図】 【現地写真】



図：人口分布



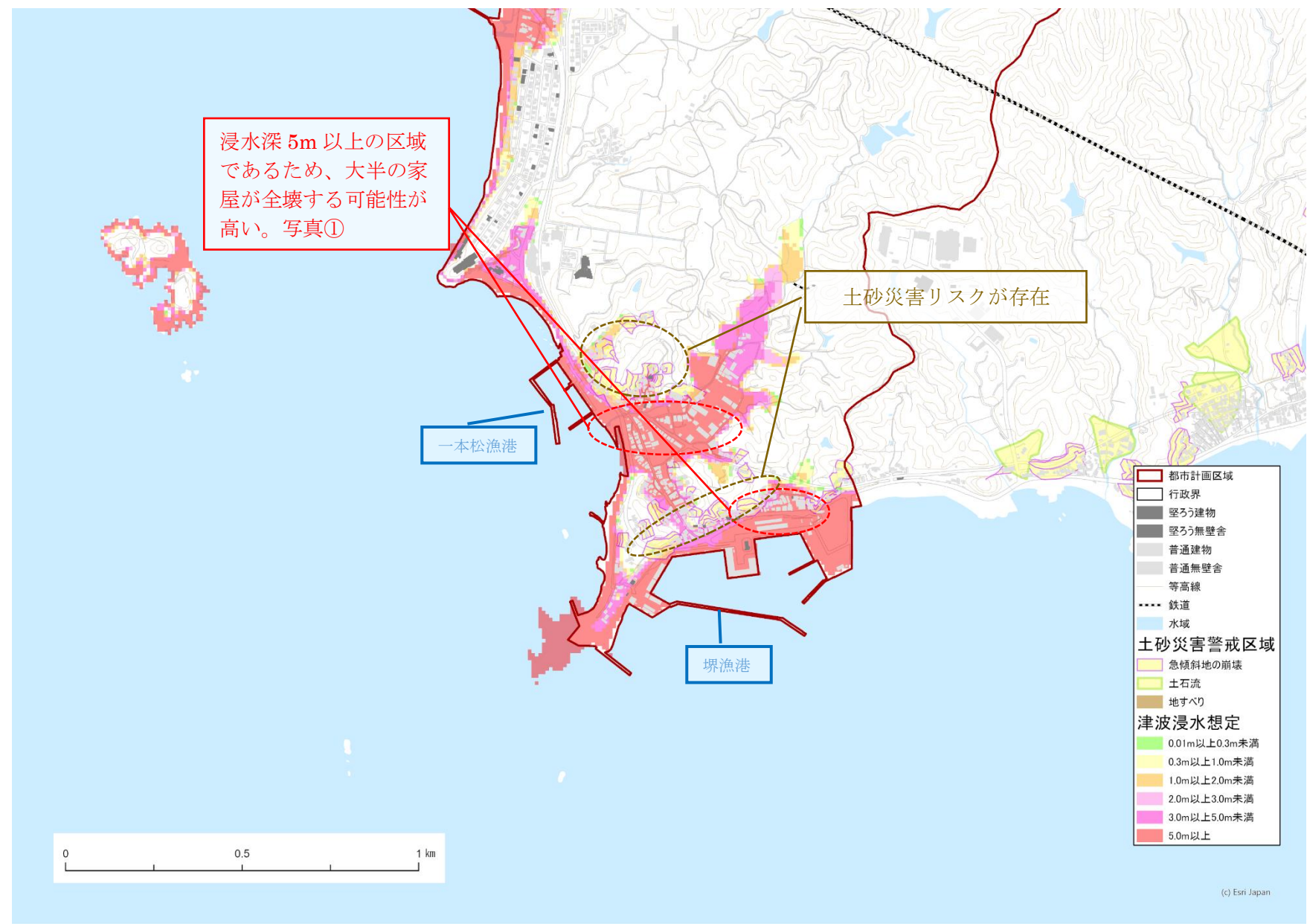
写真①：土砂災害警戒区域付近



写真②：密集市街地の狭隘道路、家屋

地区名：堺地区

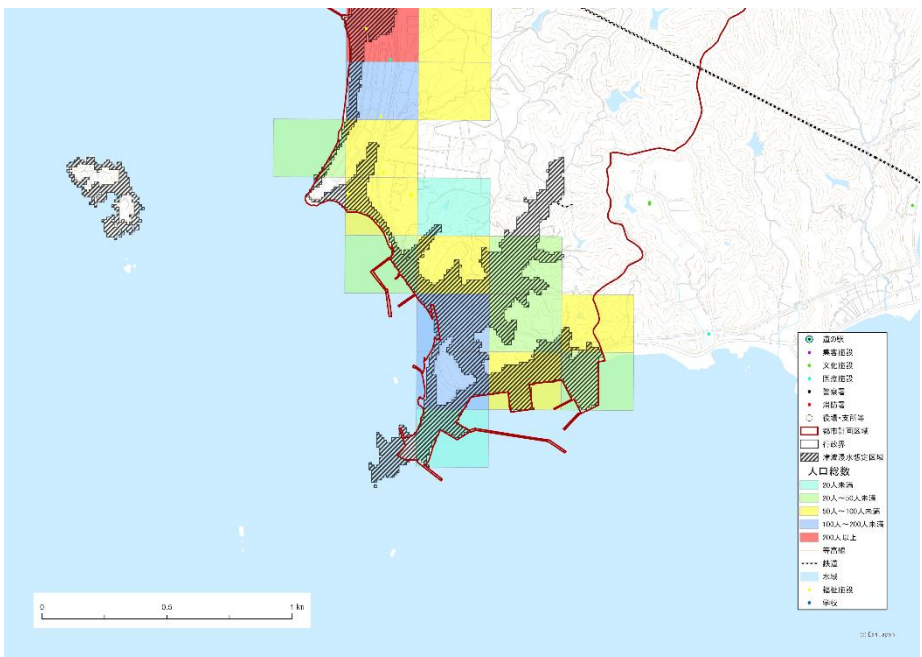
【課題図】災害リスクと建物の立地



【被害の特徴】

- ・地区全体で浸水 3.0m 以上の浸水区域が広がっており、大半は 5.0m 以上の津波浸水が想定され、多くの建物が全壊する可能性がある。
- ・漁業の拠点である漁港において、甚大な被害が予想される。
- ・堺漁港及び一本松漁港周辺の後背地においては、土砂災害警戒区域が存在し、急傾斜地の崩壊が懸念される。

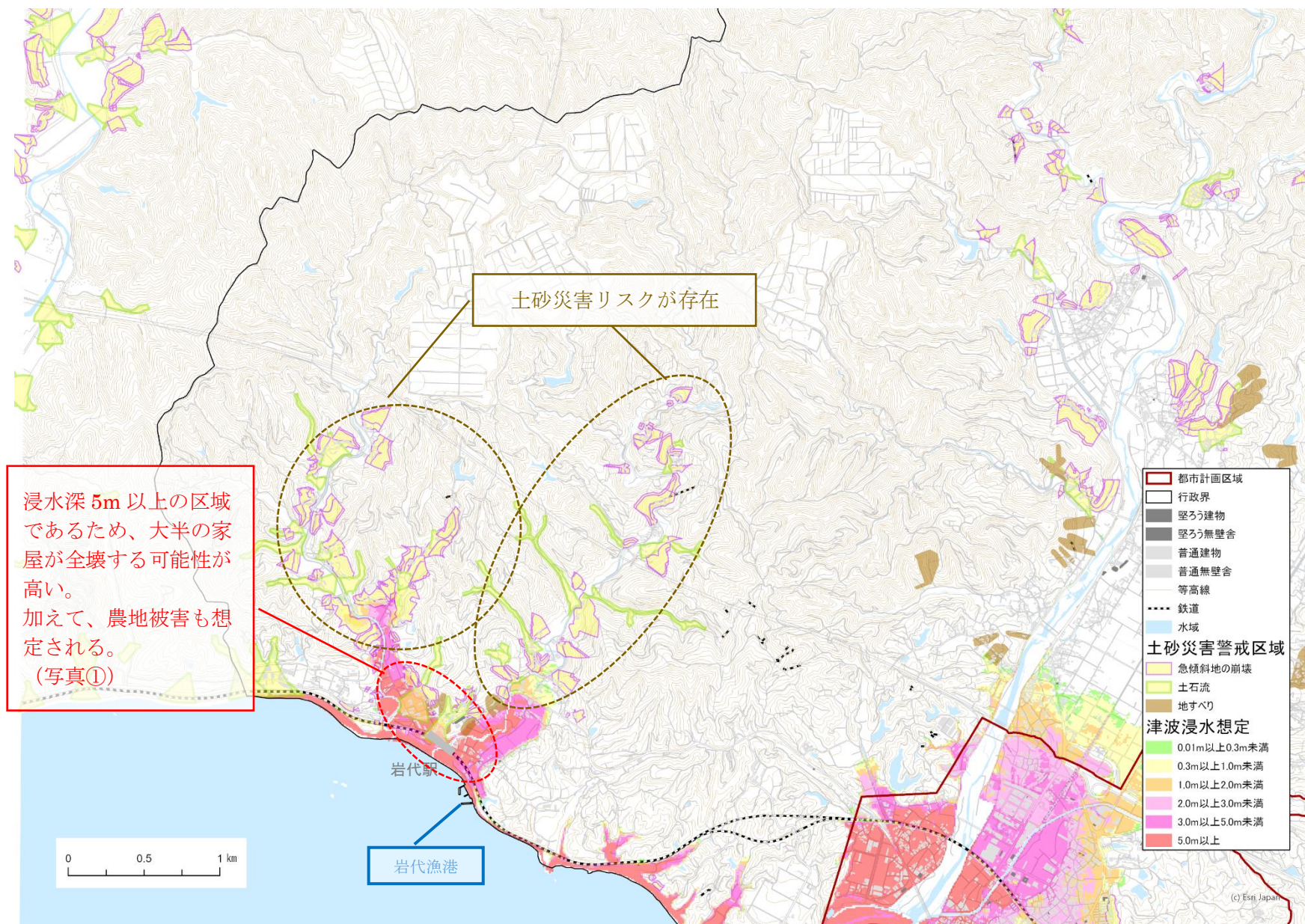
【人口分布】 【現地写真】



図：人口分布



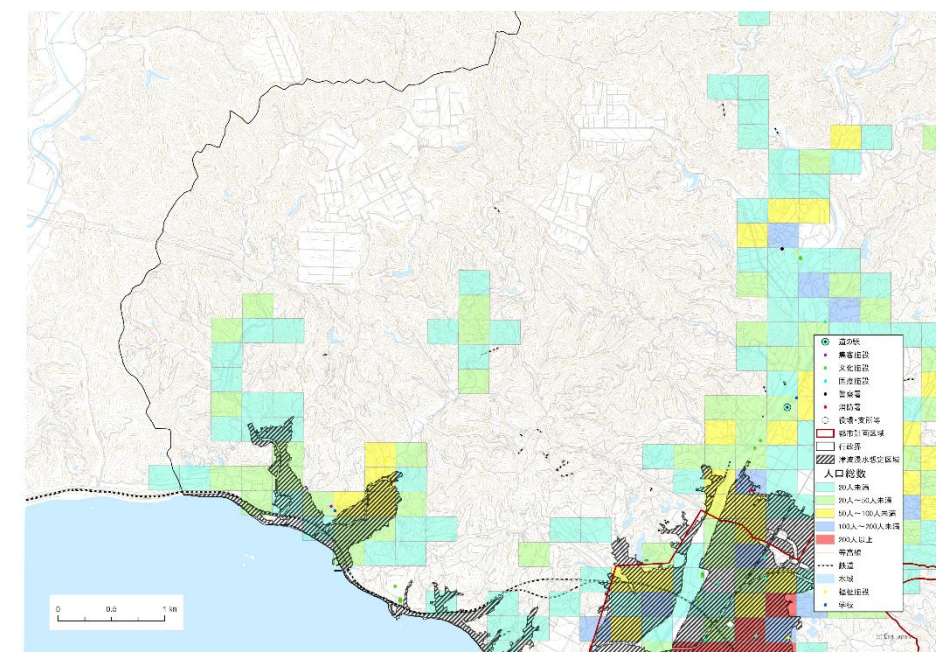
【課題図】 災害リスクと建物の立地



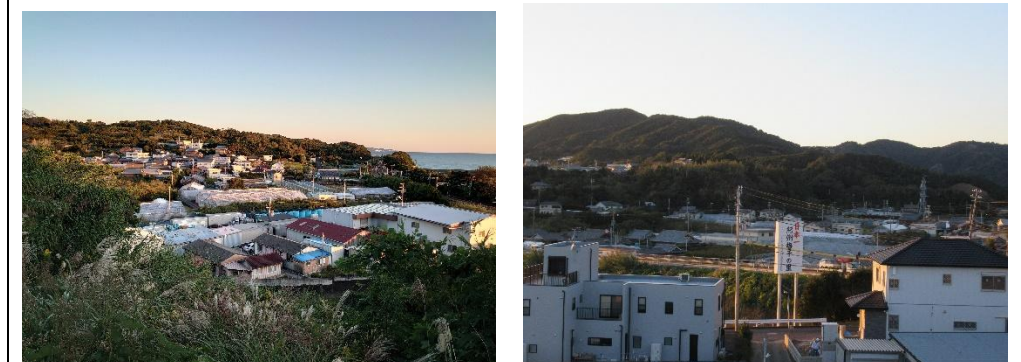
【被害の特徴】

- ・低地部における農村、漁村集落において、最大浸水深 5.0m 以上の津波浸水が想定され、多くの建物が全壊する可能性がある。
- ・農地や梅の加工場においても浸水被害が予想される。
- ・漁港において、甚大な被害が予想される。
- ・岩代駅周辺も浸水が想定され、加えて、JR 紀勢線の線路にも被害が想定される。
- ・土砂災害警戒区域が多く存在し、急傾斜地の崩壊が懸念される。

【人口分布】 【現地写真】



図：人口分布



写真①：浸水区域内の住宅地・農地